

# いわちゃん ポスト

千葉県議会議員

## 岩井 やすのり



事務所連絡先 〒270-1515 印旛郡栄町安食台 2-26-23-202  
TEL.0476-36-7799 fax0476-36-7802

HP <http://www.iwai-y.jp> mail [mail@iwai-y.jp](mailto:mail@iwai-y.jp)

### ニュータウン北環状線う回路

### 「危険な」交差点解消へ 白井市神々廻

ニュータウン北環状線と、そのう回路として交通量が増える白井市道との「危険な」変形交差点。見通しが悪く、接触事故が発生している実態を指摘し、安全対策を求める岩井に対し、県は12月県議会にて改良事業に着手することを明らかにしました。

#### ●業者側よりさらなる補償を求められ泥沼化

北環状線は、国道464号との交点となる印西市草深と白井市根を結ぶ一般県道。国道464号のう回路になるとともに、地域住民の生活道路として期待されるのですが、白井市清戸の一部区間については未だ開通の目途が立っていません。そもそも元地主が、県企業庁に道路用地として土地を売却しながら、同地に産廃物を不法投棄したことがきっかけです。平成3年に、産廃物の上に別事業者が事務所兼資材置き場を設置し占有を始めたため、道路事業を進めようにも、「産廃物を撤去し



しなればならない」「現地主は投棄に無関係」「産廃物上に不法占有者がいる」ということになり、問題が複雑化。24年5月、北環状線の工事開始時においても資材等の残置物があったことから、都市再生機構(UR)は事業者に2億2千万円の道路地及び残地物件移転補償を実施。しかし、道路工事が始まれば騒音、振動等が発生するとして、同業者からさらなる補償を求められ泥沼化しているのです。

#### ●白井市道より下り坂 接触事故多く発生

現地ですら問題となつていているのが、地元住民や交差点利用者から「危険」との声が上がる、北環状線のう回路として利用される白井市道との変形交差点です。同交差点では、中心的な流れとなつてい

る北環状線と白井市道との接続が複雑であることに加え、下り坂となつている市道から車両がスピードに乗って進入しがち。特に白井市方面からの右左折に危険を伴う状況にあり、実際、車両同士の接触事故が多く発生しているといえます。北環状線の全線開通までの仮の状態であるとはいえ、その開通時期が見通せない以上、県は道路管理者として必要な安全対策を講じるべきなのです。

#### ●31年度に予算化 早くて来年春供用開始

9月県議会に続き、12月県議会・県土整備常任委員会にてこの問題を取り上げ、早



## 負担格差の高校エアコン 来年度から県費負担へ

### ●エアコン設置済 103校のうち 98校は保護者負担

現在、県内に123校ある県立高校のうち、普通教室にエアコンが整備されているのは103校。県は12月補正予算にて13億8千万円余りを計上し、未設置校20校のうち廃校が予定される1校を除いた19校について、来年夏までにすべての普通教室にエアコンを整備するとしています。

ところで、エアコン設置済みの103校のうち下総高等の5校については、成田空港等の騒音対策のため県費にて整備されていますが、残りの98校はすべて保護者負担にて整備されたもの。エアコンの設置費用はもちろん、光熱費等の維持費用も含めすべて保護者が負担してきたのです。

### ●千葉南高は年3万円/人 保護者負担格差は最大4倍

この高校エアコン費用について問題視されてきたのが、各校の保護者負担格差です。

各校の空調費は、リース期間満了後の延長を行い、格安となっている千葉高(324.2万円/年)は別としても、木更津東高(345.3万円)等の割安な高校と、千葉南高(2905.9万円)等の割高な高校との格差は決して小さくありません。生徒数で除した1人あたり年間負担額は、木更津東高が7,300円であるのに対し、千葉南高は29,988円と実に4倍もの格差。学校によって、普通教室のみ整備されているケ

ースと図書室等の特別教室も併せ整備されているケースがあるため、一概には言えないところですが、それにしても保護者にとって納得しがたい負担格差であったことは間違いありません。

### ●特別教室については引き続き保護者負担

県は来年度、未設置校の普通教室についてエアコンを整備するとともに、保護者によりエアコンが設置されてきた98校についても県費負担へと移行するとしています。

では、これまでの高校エアコン関係費の保護者負担がゼロになるかという、実はそうとは限らないようです。

例えば佐倉高の場合、年1600万円余りのエアコンリース代は、普通教室の57台(13年リース)と特別教室29台(9年リース)によるもの。来年度から普通教室分(1人あたり9,000円/年)が県費負担に移行となる一方、特別教室分(1人あたり9,360円/年)についての県費負担はなく、引き続き保護者負担を強いられるからです。

ちなみに、これらのエアコンが使用できるのは7月から9月までの3か月間のみ。エアコンに暖房機能もあるものの、使えない契約となっているんだそうです。



急な対策を求める岩井に対し、県は交差点改良に着手すると回答。具体的には、印西方面への白井市道と白井方面への北環状線の接続を優先する形状(上図)に変更し、印西から白井への主たる車両の流れの円滑化を図るといふものです。

予算計上は来年度から。必要な土地取得を行いつつ、早ければ来年3月までに供用を開始させる見通しです。同交差点改良の早期完成はもちろん、北環状線の早期全線開通についても、引き続き求めてまいります。

# 住民「待った」で開発計画が修正～小林浅間・三菱社宅跡地

印西市小林浅間の三菱化学社宅跡地にて進められている宅地開発。区域内道路の出入口が既存交差点に近接して危険であるとして、近隣住民より「待った」の声がかかりました。

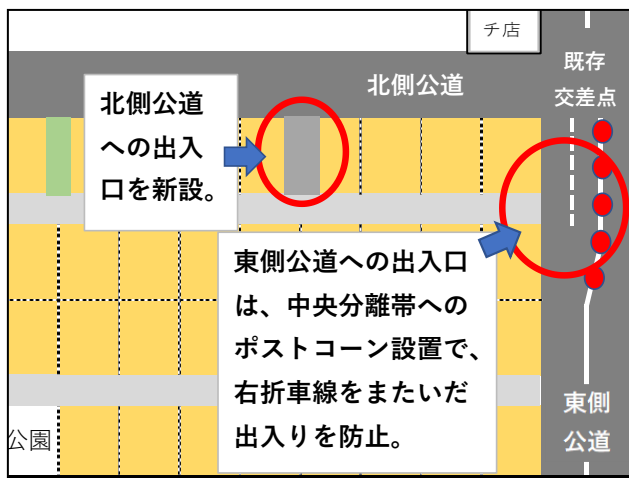
## ●既存交差点に近接した出入口に事故誘発の懸念

開発業者が住民説明会を開催したのは昨年11/18のこと。2ヶ所余りの同社宅跡地に88区画を造成する開発計画に対し、住民側は「周辺景観との連続性の確保」「公的歩行者専用道の設置」など7項目の要望書を提出したものの、業者からの回答は「ゼロ回答」と言えるものでした。

問題となったのが区域内道路の形状です。業者による当初計画案では、コの字型（図では逆コの字）となる域内道路の出入口の一つが、既存交差点から8m以内と近接。普段より交通量が多い交差点である上、車両が出入りする際には右折レーンをまたがなくてはならないため、渋滞や接触事故の誘発が目に見えています。付近は通学路として小中学生が行き来するだけに、到底容認できる計画案ではないのです。

## ●印西警察「問題改善された」として市が開発許可

当問題については印西市議会でも取り上げられ、市開発指導課が計画案の修正を求める一方、



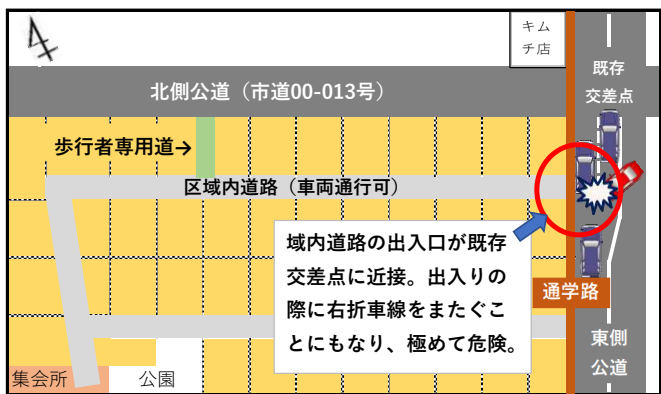
許可が下りた計画修正案

岩井は印西警察署との協議を重ね、問題解決の糸口を模索。そもそも同出入口の設置について「危険」との認識を示していた印西署でしたが、12月に入り市及び業者に対し「道路法95条の二の道路協議」の必要性を通知するに至っています。

この県警本部を交えた道路協議が実施となることで、着工が大幅に遅れることを嫌った業者は、改めて計画修正案を提出。北側公道への出入口を新設するとともに、東側公道への出入口については、中央分離帯にポストコーンを設置することで右折車線をまたいだ出入りを防止するという、当初計画案より大きく前進したものでした。

市開発指導課はこの修正案について印西警察署と再度協議。同署も交通安全上の問題が改善されたと判断したことから、12/27に開発を許可するに至ったわけです。

今回は、直接には地元住民の声を受けた印西市議会、市担当課による働きかけが奏功したのですが、県警と重ねてきた協議がいくばくかでも影響していたとするなら、幸いに思うところです。



## 「見えない横断歩道」県内 1700 か所 年度内改修

歩行者の安全を脅かしかねない、見えない・見えにくい横断歩道。県警は、県内の横断歩道の総点検を行った結果、著しく摩耗している1,700か所を確認し、年度内にその改修を行うこととしています。

### ●横断歩道一時停止 8.5%、県内 3740 件摘発

昨年1年間に県内で起きた交通事故の死者数は186人と、愛知県に次いで全国ワースト2位。全国の交通事故死者数が前年より162人(4.4%)減となる中で、本県は前年より32人増、過去5年で最多と際立って悪い結果となっています。交通死者186人の事故に遭った状況では、歩行者60人、自動車乗車中が60人、二輪車乗車中33人など。特に65歳以上の高齢者の死者は99人と、全体の5割を超えるに至っています。

そのような中、県警がゼブラ・ストップ作戦と銘打ち強化しているのが、安全に横断歩道を渡れる環境整備と、横断歩道を渡ろうとする歩行者がいるにもかかわらず停止しない車両への取締りです。

一昨年の例で言えば、歩行中の事故2,923人のうち、924人が横断歩道を歩行中に死傷。また、JAFによる調査結果によれば、全国の信号機のない横断歩道の一時停止率は

わずか8.5% (2017年)であり、本県では昨年8月までの8か月間で、横断歩行者妨害違反で3740件が摘発されているのです。



見えにくい横断歩道

### ●横断歩道の13%、1,700か所が「著しく摩耗」

一方、このゼブラ・ストップ作戦を効果的に進める上で欠かせないのが、摩耗した横断歩道の補修です。

車両は、横断待ちの歩行者がいる場合に横断歩道の手前で停止しなければなりません。肝心の横断歩道が摩耗してしまい、見えない・見えにくい状態のものが少なくありません。歩行者の通行が多い駅前や児童・生徒の利用が多い通学路でさえも、管理が行き届いていない、消えかかった横断歩道が散見されるのです。

こういった県議会での指摘に対し、県警は昨年4月から県内の横断歩道2万1千か所全てを確認する一斉点検を実施。昨年8月末時点で、点検を終えた1万3千か所のうち、実に13%に相当する約1,700か所が著しく摩耗し見えづらい横断歩道であったことがわ

かっています。

県は今年度、当初予算で1,750か所、補正予算で1,100か所、計2,850か所の補修費用を計上。昨年8月時点で著しく摩耗とされた1,700か所の他、同12月に点検を終えた残り8千か所のうちの摩耗横断歩道についても、その補修を進めていくとしています。

さて、悲惨な交通事故から歩行者を守るためには、横断歩道をはじめとする交通安全施設の機能が不可欠。来年度以降も引き続いての予算確保が必要です。また、身近に摩耗し見えにくくなっている横断歩道がありましたらお気軽にご連絡ください。地域の県議会議員として、個別にしっかりと補修要望を行ってまいります。

### 千葉県議会議員

## 岩井やすのりプロフィール

1970年生まれ 49歳 2期目現職(無所属)  
早稲田大学大学院 政治学研究科修了

全盲の視覚障害者を両親に持ち、障害者の困窮する生活ぶりを多く目の当たりにしてきた事が、政治を目指すきっかけに。妻とともに2人の子どもを育てる子育て世代です。

